

成田山の歴史

成田山新勝寺と市川一門の絆

歌舞伎の市川一門のステージネームである「成田屋」は、彼らと成田山新勝寺との長く密接な関係を反映している。その関係は 17 世紀にまでさかのぼる。

江戸(東京)生まれの市川團十郎(1660-1704 年)は、1673 年の初舞台以降、一番有名な歌舞伎役者の一人となった。しかし、彼は子宝に恵まれなかったため、成田山新勝寺を訪れ子授けを祈願。1688 年に息子が生まれて願いが成就する。

團十郎は、歌舞伎で不動明王を演じることで新勝寺にに対し感謝を表す。この芝居が大当たりとなり、成田山新勝寺の名声は広がったのである。不動明王の役は團十郎の得意な役となり、「成田屋」が代々の屋号(ステージネーム)になったのである。それ以来、市川團十郎と呼ばれる彼の子孫たちも、成田山新勝寺と強い縁を持ち続けている。